



GREEN

さがみはらグリーン

(財)相模原市みどりの協会機関紙

- 平成5年4月29日発行
- 編集・発行者／(財)相模原市みどりの協会
- 発行所／〒228 相模原市麻溝台2,317番地の1
市立相模原麻溝公園内、(財)相模原市みどりの協会 ☎0427(77)2860

Vol.2



みどりの少年団。 相模原から発信、全国に広がれ「みどりの輪」。

昨春秋に開催された「第9回全国都市緑化かながわフェア・グリーンウェーブ相模原'92」は盛況のうちに幕を閉じましたが、これを機に、みどり豊かなまちづくりを推進しようという気運が市民の間にさらに高まってきたように思います。

このような中で今年二月、次代を担う子ども達に緑の大切さを感じてもらおうとともに、自然と触れ合いながら仲間づくりができるようにと、「相模原市みどりの少年団」が結成されました。相模原市子ども会育成連絡協議会(市子連)が子ども会活動のひとつとして取り組むことになったもので、「みどりを全国に発信する」という基本理念に基づいて諸活動を展開している当協会としても、この少年団活動を全面的に支援していくことになりました。

みどりに親しみ、育てていこうという気持ちは子どものころから培うことが大切です。「みどりの少年団」は全国組織であり、住んでいる地域や都市というエリアを越え、全国視野に立った緑の学習や活動を推進していくことから、その活躍が大いに期待されます。また、学校教育の週休2日制導入等、余暇のあり方についても問われている昨今、その中の緑化活動は、社会的にも意義のあることと思われまふ。

子ども達が、自然の中でキャンプをしたり、ハイキングをしたりして、自然に触れ親しむことができる機会をより多く設けることも大切なことと言えます。今後、みどりの少年団が子ども会活動をさらに活性化させるよい材料となるよう、子どもが楽しみながら参加できる、魅力ある活動内容を作り上げていくことが必要と思われまふ。そのために、みどりの協会は市子連との協力体制のもと、温かい支援を続けてまいります。



■レクリエーション活動

ハイキングやキャンプ、ウォークラリー、オリエンテーリングなどの楽しい集団活動をととして団結と協調の精神を養います。

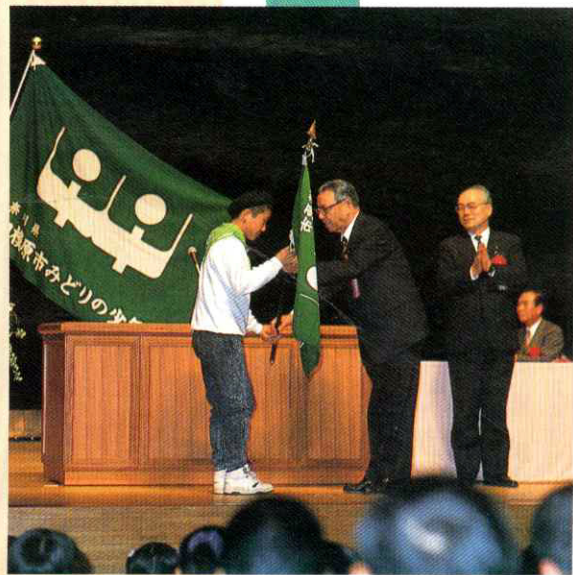
■奉仕活動

汗を流すことの貴さ、社会の一員として自覚を養うためにも大切な活動です。緑化行事への参加、公園・緑地の清掃、表示板の設置などの奉仕活動です。



■学習活動

みどりや森林の働きや学習、みどりを守る学習、自然の中の鳥獣・昆虫などの観察・愛護の学習から、みどりや森林を守ることの大切さを学びます。



●結成にあたっては、相模原市グリーンウェーブ推進委員会 会長・館盛市長から地区団旗が寄贈されるなど、多くの団体から支援を受けました。

GREEN TALK

グリーントーク いま緑を語ろう

昨年の「グリーンウェブ相模原'92」の中で作品を募集した「花のはがき絵展」には千二百通もの応募があり、一枚一枚のはがきから市民の花に対する思いと同時に、絵に寄せる関心の高さも伝わってきました。

そこで今回は、画家の目から見た「みどり」、そして「相模原」を語っていただくことと、日本画家であり、女子美術大学教授を長年つとめられた三谷青子先生にご登壇願いました。なお、三谷先生は(財)相模原市みどりの協会理事もつとめられています。

絵のこと。自然のこと。



▲大学構内・個展会場にて

突然、これが描きたいノと思うんです。

私が本格的に絵を描くようになったきっかけは、母親が絵描きだったことと、子どもの頃から絵が上手だったことでしょうか。また、今はとても元気なんです、小さい時は非常に体が弱くてね、小学校も六年間のところ四年間くらいしか通ってない感じですね。それほど休んでばかりだったから、それが私を絵にさらに近づけたんじゃないでしょうか。



のびのび明るい子どもではありませんでしたしね。自分が娘をもって、あまりにも賢いがなく、元気ではずかしくしているのが驚いたくらいです。

(絵は)突然、これが描きたいノと思うんですね。この「ポニーに乗る」もそうでした。時には、旅先である風景をスケッチしていると、その場に前に教室で学生と一緒に描いた人物画が頭に浮かんできて、一つの絵になることもあるんです。

相模原に来たから描けた絵もあります。

杉並からここ(麻溝台)に移転の話があった時は反対意見もありましたが、私は賛成でした。新宿から四十分のところなので都会続きだし、近くに公園や体育館、動物園、釣り堀があるという話だったから、町田あたりの人が遊びに行くところかなというイメージでした。

学生たちからも、こんなところに移転しちゃって、なんていう不満の声もあるかと思いましたが、ありませんでした。順応性



▶第22回日展(一九九〇年)「ポニーに乗る」

があるんじゃないか。こちらに引っ越してきた学生も多いんですよ。こちらのほうが下宿代が少し安いそう。まあ、サイクリングするように行ったり来たりして楽しんでるようですし、杉並にいた時よりみんな仲良くしてるみたいです。

私は、ここはよいところだし移って来てよかったと思っています。授業で(公園の)動物や植物、(フィッシングパークへ行って)魚などを描いていますが、ここに来たから描ける絵もたくさんあります。

ただし、昨年はグリーンウェブのために予定した授業が変わってしまいました。そういえば、(校舎の)屋上から公園を見た景色がとてもいいと聞いて上がってみました。が、ちょうどグリーンウェブの工事が始まってしまっ。仕方がないから丹沢の方に向きを変えて描きました。それを昨年の日展に出品しました。

整備された自然のほうが美しいことも

育ったのは京都の片田舎で、まわりが全部原っぱの緑だらけのところ。東京の杉並に越してきたのが昭和三十一年で、そこも当時はまだ緑がいっぱいでした。住んだ家があった、広い庭に木がうっそうと茂っていてね、父親が植物の好きな人でやたらいろいろな木や草花を植えていたんですが、木がかわいそうだからと言ってどんなに伸びても切らせなかったんですよ。父が亡くなって手入れをしたので、今は庭が明るくなりました。

私の絵の中に出てくる緑はたしかに幼いころの記憶とつながりがあると思います。でも私自身、自然とか環境とかについては、はっきり言えることはあまりないんです。木が生えていたり、自然があったほうがいいとは思いますが、ただそのままでは美しくないところもあるし、公園のように整備したほうがきれいな場合もあります。

これもまたグリーンウェブの時の話なんです。が、駐車場をつくるのにも、公園のほうも雑木がたくさん切られちゃったんですよ。こちら(大学側)から見ても、みんなでもったいないって言うてたんですよ。でもね、考えてみるとこの学校だってそうでしょ。せっかく雑木林があったところに建てちゃったわけだから。そうしたら研究室のある女性がある、でも公園ができた、それはそれなりにまた別の意味できれいになっていいんじゃないですか。

か」って言ったんです。それを聞いてみんな、なるほどと思ったんですね。

だから、いろんな見方があるんですよ。自然のままにしておくのいいという考え方もあるけど、そうすると中には入りにくから自然に触れることもできないわけだし。ここは、公園になったところもあるって、雑木林のまま残っているところもあるって、一つの形ができています。それでいいんじゃないんですか。

今度、下溝の方へ行って、相模川のあたりを描いてみようと思っています、いいところだと聞いたので。今年の日展はこれにしようかしら、と思っています。



「青い沼」



「赤い沼」

三谷先生から相模原市に寄贈された「青い沼」「赤い沼」。
相模原産業会館に展示されています。

三谷 青子 (みたに あおこ)

一九二八年生まれ。日本画家。女子美術大学教授を今年三月に退職。日展評議員。日展ほか数々の展覧会に出品、多くの特選、入選作がある。平成五年、市へ作品二点を寄贈、相模原産業会館にて展示中。母親は元女子美術大学学長、日本画家の故三谷十糸子氏。
※女子美術大学・一九九〇年四月、相模原市麻溝台(県立相模原公園、麻溝公園の向かい)に東京・杉並より移転開学。